

鎌倉市教科用図書採択検討委員会（第3回） 会議録

日 時 令和2年（2020年）年7月21日（火） 9：30 開会
17：00 閉会

場 所 深沢学習センター 第1集会室

出席者 三好委員 掛札委員 八神委員 鈴木委員 林委員
磯部委員 内海委員 永井委員 小西委員 杉野委員

事務局 石川教育指導課長 池邊指導主事 上指導主事 佐藤指導主事
山内指導主事 濱地指導主事 竹下指導主事 鈴木指導主事
山美指導主事 赤山指導主事 花村担当係長 竹澤指導主事

次 第

- 1 開会
- 2 種目ごとの説明、協議等
- 3 閉会

会議内容

委員長 鎌倉市教科用図書採択検討委員会の第3回委員会を開催する。本日の会議録署名委員を磯部委員と杉野委員にお願いするがよいか。

委員 よい

委員長 それでは、本日の流れについて事務局から説明をお願いします。

事務局 本日は最終回であり、第2回の引き続きということで、残り12種目の検討をよろしくをお願いします。その後、検討委員会報告書をまとめる作業となるが、その段階になったら説明させていただく。

なお、先日用意できなかった教科書展示会での市民アンケートについては、奥の机の上にまとめて用意してあるので、後ほどご覧いただければと思う。

委員長 今事務局から説明があったが、質問はあるか。

委員 なし

委員長 では、検討を開始する。
まず、歴史の担当の方をお願いします。

事務局 歴史について説明する。
はじめに、東京書籍。
巻頭に持続可能な社会の実現に関する内容が具体的に掲載されている。
第1章の「歴史をとらえる見方・考え方」では、考えるポイントが記されているため、見通しをもって学習を始めることができる。
各章の導入では、資料から気づきを促し、対話的な活動が設定されている。
章の初めに探求課題に迫るための手立てとして段階を踏む学習方法の記載があり工夫されている。

次に、教育出版。

タイトルには、学習内容を象徴的にイメージさせる主題と、学習事項を示す副題を明示することで、生徒が課題意識をもって学習に取り組めるようになっている。

各章の「学習を始めよう」では、その時代を象徴する資料やキャラクターによる問いが設けてあり、見通しを持てる工夫がされている。

「歴史を探ろう」では、テーマに沿って学習をさらに深めることができる。

本文の学習の中にある「歴史の技」コーナーでは、資料の活用に関わる問いが設定されている。

続いて、帝国書院。

章、節、単元ごとに問いが示され、見通しが持てる。また、各ページの末尾に「確認しよう」・「説明しよう」があることで、学習のふりかえりができる。

「多面的・多角的に考えてみよう」では、さまざまな立場から考えることで、主体的な活動ができるような工夫がされている。

「タイムトラベル」では、当時の人々の様子が詳しく描写され、興味を持って学習に取り組むことができる。

次に、山川出版社。

鎌倉幕府の歴史に関する記述が豊富であり、鎌倉に住む子どもたちにとって、興味・関心を引く工夫がされている。

「地域からのアプローチ」では、地域の歴史を、食事や名産品等、さまざまな角度から捉えた資料が豊富に掲載されており、深い学びにつながる。

歴史の転換期ごとの世界の動きが見開きの地図やイラストで掲載されている。

続いて、日本文教出版。

「私たちと歴史」では、小学校の歴史学習をふりかえりながら、「歴史的な見方・考え方」を学ぶことができる。

古代から現代まで、各時代の女性の姿を紹介するコラムがあり、男女平等の意義について考える力を養うことができる。

「チャレンジ歴史」のページで複数の資料を生かして、テーマに応じた考えを導き出す力を身につけられる。

続いて、育鵬社。

各章の終わりに「なでしこ日本史」のコラムがあり、社会の情勢の変化とともに女性の社会進出について学ぶことができる。

各章にある「歴史のターニングポイント」では、さまざまな資料を基に、みんなと意見交換でき、主体的で対話的な深い学びを実現できる。

各章初めに「海洋国家・日本の歩み」が掲載され、テーマを意識した学習ができる。

最後に、学び舎。

「フォーカス」で、特徴的な事象等を詳しく説明することで、その時代のイメージがしやすくなっている。

各章の扉ページに、その時代の各地の様子を表す写真や絵を配置しており、興味・関心が引き出せる。

巻末に12ページにわたり年表が掲載されており、世界の動き等と関連付けて学習できるようになっている。

委員長 それでは質疑のあるかた。

委員 なし。

委員長 それでは協議に入る。

委員 東書は、使いやすい。歴史は、資料集とともに学ぶのが定番だが、東書は資料が豊富で、これを使えばある程度の歴史的事象が読み取れる。

 教出はタイトルが興味深く、授業者としてもどのようにやろうかと幅を広げ、謎を解きながら進められる。

帝国の「タイムトラベル」は、歴史を体感でき、役に立つ。章ごとに比較もでき、時代の変化を体感できるのがよい。

委員 日文は、どのページにも年表がある。また、時代として令和、つまり子どもたちの時代まで載っている。
東書は、章の最後のまとめが分かりやすい。

委員 東書は、鎌倉も行っている SDGs に関連して学習できると感じた。
帝国は、多角的多面的でいろいろな立場、考え方から自分なりの考えを深められる。
山川のアプローチは他と違うが、様々な地域の立場から考えられるのがよい。
育鵬社は、「鳥の目、虫の目」で、大きな歴史の流れから小さな部分をとらえることができるのがよい。

委員 東書の資料が豊富というのは同意。これから求められる子どもたちに対して必要な、対話的な展開で、見通しを持って章の終わりにまとめていける。
帝国は、多面的多角的に物事を見て深い学びにつなげられる。
山川は、生徒たちが育った鎌倉について興味を持てる構成になっていることは評価できる。

委員 東書は、一貫して SDGs について載せている。SDGs について、歴史を通じて、過去の環境破壊等の事例を考えていくことは、SDGs や ESD にもつながっていく。学びの方向性が一貫したところが、子どもたちの思考をクリアにしていく。
日文は、小学校の歴史学習をふりかえりながら、というのが、社会科離れが著しいとも言われている中で、学びをつなげていくことができるというアドバンテージがある。

委員 帝国は、多面的多角的に考えてみようという問いかけが多く、ディスカッションの活動等発表する活動も多い。歴史的事実に即して考える、もし自分が徳川だったら等、学習した内容をより自分のものにできる。対話的学習で、友達の意見が面白かった等、楽しいと感じたことが学習内容の定着につながる。
山川は、資料や説明が豊富で、多面的な考えを促す問いかけが多い。

委員 章のまとめを見比べてみた。歴史は単に出来事や人物の暗記にとらわれないようにしたい。
東書は、自分事として解決していけるのがよい。こんなふうに時代の人を見るというキーワードで、子どもの興味関心に近い形で書かれている。
帝国は、章の学習を振り返るところで時代の特色を説明しようとしている。高度だが特徴がある。

委員 学び舎は、フォーカスがおもしろい。学びに入りやすくなる。巻末の年表が他の3倍くらいあって歴史の流れをつかみやすい。

委員 日文は、小学校の学びとの継続性がある。「チャレンジ」の資料の出し方が、例えば田中正造は小学校では国語で出てくるところとつながる。

帝国の「タイムトラベル」では、小学校では歴史の大きな流れをやるが、ここでは庶民の様子が出てくるところがよい。

学び舎は、章の最初、扉のページの年表が分かりやすい。大きな歴史のどこを学んでいるかを意識することができる。

委員 教出は、小学校とのつながりがあり、今の現代の様子ともつながっている。たとえば城等。身近に感じられる。

委員 いまの鎌倉の中学生の様子を見ていると、資料が豊富なものがふさわしいと考える。また、探究課題はよく考えさせることが必要で、これから求められることであり大切なので、その中で見通しを持って自分の学習を見つめることができる東書がよいと思う。

委員 鎌倉の子どもたちにと考える部分と、バランスの良さを考えると、東書が今の鎌倉の子どもたちには合うかなと考える。

委員 まとめやすいのが東書と帝国という意見が出ていたが、どちらかといえば東書が子どもの考え方に沿っている。考えやすいようにプログラムされている。

委員長 まとめると、東書が◎で、帝国、日文が○ということでよいか。

委員 よい。

委員長 では、公民の担当の方お願いします。

事務局 公民について説明する。

まず、東京書籍。

「公民にアクセス」「もっと公民」等のコラムでは、エシカル消費やキャッシュレス決済、IoT等現代社会の課題が取り上げられている。

「みんなでチャレンジ」では発展的な課題が用意され、対話的な学びを通して理解を深める工夫がなされている。

様々な立場で活躍している人のインタビュー記事があり、生徒が学習内容を実社会と結びつけて捉えられる。

章末の課題に思考ツールが多く用いられ、生徒が学びを整理しやすい。

次に、教育出版。

「公民の窓」では、ヘイトスピーチ等現代社会の課題について丁寧に取り上げられている。

「読んで深く考えよう」では、LGBT等豊富な資料が掲載され、発展的な課題も用意されており、生徒が興味を持って学びを深めることができる。

平和主義について詳しい説明をしており、理解を深めることができる。

「言葉で伝え合おう」では、クラウドファンディング等実社会とのつながりを感じられる魅力的な課題が用意され、より深い学びにつなげることができる。

続いて、帝国書院。

「公民プラス」では、AIの防災への活用等、現代社会の課題を扱うコラムが豊富に掲載されている。

人物へのインタビュー記事が数多くあり、学習内容と実社会との結びつきを感じられる工夫がある。

「アクティブ公民」では実社会に通じる課題が設けられ、多様な立場を踏まえて自己決定する活動が用意されている。

新聞の特徴について特設ページで詳しく紹介しており、メディアリテラシーが身につくように工夫されている。

続いて、日本文教出版

「公民+α」では、「エネルギーの地産地消」等、現代社会の課題が取り上げられ、学習内容の理解を深めることができる。

「アクティビティ」では、「消費を通じた社会への意思表示」等、実社会に通じる課題が多種多様に用意され、社会参画への意欲を十分に高める工夫がある。

各章の終わりに、シンキングツールが紹介され、生徒が課題をより深く考察できるように工夫されている。

小学校や地理、歴史との関連付けが問いによって明記され、ふりかえりの学習がしやすい。

次に、自由社。

「もっと知りたい」のコーナーでは、多岐にわたる社会課題を扱っており、愛国心や公共の精神の大切さ、公民的資質を育みやすい内容になっている。

章末の「学習のまとめと発展」で、生徒が得た知識を使って言語活動を促す問いが用意され、深く学べるようになっている。

「アクティブに深めよう」のコーナーで、発展的な課題が用意され、対話的な学びが促されている。

「紹介する主な人物」の一覧が、目次に大きく掲載され、生徒が「人物」に興味・関心を持って、情報を収集できるように工夫されている。

最後に、育鵬社。

「学習を深めよう」のコラムでは、フィンテックやキャッシュレス社会等、現代的なトピックが取り上げられている。

「スキルアップ」ではロールプレイやディベートを用いた活動が用意され、生徒が主体的に学習できるような工夫がある。

天皇や伝統文化、郷土に関する情報が充実しており、生徒が愛国心を育てるように工夫されている。

「日本企業の技術力とアイデアを世界に生かす」というコラムでは、生徒に日本人であることに誇りを持たせ、社会に貢献したいと思わせる内容とな

っている。

委員長 それでは質疑のあるかた。

委員 なし。

委員長 それでは協議に入る。意見はないか。

委員 育鵬社は、死刑制度についてディベートする内容が取り扱われている。

委員 公民は、中学校3年生で扱うものとして考えたとき、実際に体験したりニュースで見たりする等、実社会に結び付いたときに学習が深まる。東京書籍は、そのような題材が扱われている。

日文は、絵が入っていて分かりやすい。3年生で地理、歴史に関することも取り扱われ、復習になる。シンキングツールもよい。

委員 日文、帝国、東京書籍がよい。社会に出ていく3年生が自立に向けて学んでいくものとして、東京書籍は、中学生には難しいと感じやすい法律や経済等について、抵抗が少なく学習に入りやすい紙面構成となっている。

日文は、裁判員裁判のシミュレーション等、自立へ向けた意識を育むものである。

帝国の「公民プラス」のコラムでは、裁判員制度について、自分だったらと考えさせるものがあり、実社会に結び付いていてよい。

委員 教出、帝国、日文でみたが、特に教出、帝国については、実社会に結び付けて子どもたちが考えていけるもので、興味関心を持って学習していけると感じた。

メディアを自分で受けとめて、自分で考え、判断していくことが大切で、自分で考えることができるものであると感じた。

日文は、社会に出るにあたり、自分で考えていくことができる。

小学校の学習とつなげてスパイラルに考えていくことが大切で、小・中で学んだことをその先につなげていくことが大切だと考える。

委員 表題について、日文、教出は、「わたしたちと」という言葉で始まることが多い。中学生に、自分として考えることを大切にしているように感じる。

帝国は、「民主主義と日本国憲法」というやや固いイメージ。また、東書は「現代社会と私たち」とあり、現代社会を中心としているイメージ。

子どもたちと、社会のつながりを考えると、日文、教出がやわらかく、特に日文の「私たちと社会参加」というコラムのように、主体的に授業に臨んでほしい。

委員 教出、帝国について、現代社会の課題として、日々の生活で耳にする言葉が取り扱われている。

日文は、探究で、考え方の整理、自分の意見を持つ、ということについて有効なものが扱われている。

東書の「みんなでチャレンジ」は、いろいろな人の考えを読んだうえで、自分がどう考えるかということが出来る構成となっている。

育鵬社の「やってみよう」というコーナーは、生徒自身の課題に投げかける構成になっているので、考えを深めやすい。

委員 日文、帝国、教出、東書、身近なことを子どもに考えさせていかななくてはいけないというテーマが丁寧に取捨選択されている。日文の点字等は、教科横断的な学習にもつなげられる。帝国の「難民支援」、東書の「国境なき医師団」も教科横断的に考えさせることができる。

委員 帝国の「アクティブ公民」は、実社会につなげられる課題であり、自己決定をするということに興味をひかれた。

自由社は、「アクティブに深めよう」が各所にあり、教科書に書き込めるようになっている。資料も活用しながら、自分たちはどうしていくかを考えさせるのが面白いと思う。

委員長 これまでの意見を踏まえると、日文が◎で、帝国、教出が○。
これでよいか。

委員 よい。

委員長 続いて、地図の担当の方お願いします。

事務局 地図について説明する。

はじめに、東京書籍。

地図帳全体を通して、地図だけではなくグラフ等資料が豊富に取り上げられており、学習に活用できるように工夫されている。資料集として活用することができる。

歴史分野や公民分野の資料も掲載されている。社会科全体を通して、学びが深められるよう工夫されている。

世界の州や日本の地方のページでは、インデックスに「注目したい記号」が設けられており、どの記号やマークに注目して地図を読めばよいか分かりやすく、地図の見方をみにつけることができるようになっている。

「現代的な諸課題」は6ページにわたって資料や写真が多く取り上げられており、生徒が関心を持ち課題意識を持って学ぶことができるようになっている。

続いて、帝国書院。

表紙に世界地図、裏表紙に日本地図がある。国の位置関係や地域の場所等の位置関係をすぐに把握でき、授業で活用しやすくなっている。

各地図に「地図活用」のインデックスがあり、学習課題を持って地図を見ることができる。地図の見方を育てるものであり、楽しんで答えることがで

きる。また、生徒が「地図活用」のインデックスを見て自学自習を進めることもできる。

版が大きいので各地図が大きくて見やすい。全体像や広域なつながりを一目で確認することができる。地図が大きいために説明の文字も大きくなっている。

地図は5色で印刷されており、色遣いが鮮やかで見やすい。山の高さの区切りが縁取ってあったり、文字が白抜きされた上に印刷されていたりしている。地理的特色等必要な情報が読み取りやすいよう工夫されている。

委員長 それでは質疑のあるかた。

委 員 なし。

委員長 協議に入る。意見はないか。

委 員 地図の色合等で見やすいのは、見慣れている帝国書院である。大きさも、大きいほうが地図としては見やすい。

東京書籍は資料が豊富なので資料集はいらないが、授業の中で地図帳をどのように扱っていくかによる。地図として使うのであれば帝国書院がよい。地図として活用する以外に様々に使用するのであれば、東京書籍でもよいと思われる。資料から読み取る力をつけるということを考えると、東京書籍に移行することもありか、とも思う。

委 員 東京書籍のほうが生徒に考えさせる内容が多い。帝国書院も資料は豊富であると感じる。帝国書院では日本地図に各地区の防災が掲載されており、生徒が自分達の住む地域の防災についての意識付けとなっている。

委 員 地図としてはどちらも同じように作られているが、色のコントラストを考えると、帝国書院のほうが見やすい。地図中の地名等の文字も目に入りやすい。また、高速道路や川といった記号や表示も帝国書院のほうが分かりやすい。

「地図活用」というインデックスが必要かどうかについてだが、地図は開いていくことが大切なので、こういった活動で地図を開く子どもが増えるのはよいので帝国書院がよい。

委 員 二つ並べると、帝国書院のほうが見やすいと感じる。東京書籍のメリットとして挙げられた資料の豊富さについて、資料集が1冊なくなるのであればメリットであるが、そこまでの資料となるのか。地図の見易さとして考えるならば帝国書院がよい。

委 員 帝国書院のほうがよい。地図の版が大きい。見開いたときに地域ごとの見易さを感じる。

東書の特徴は、インデックスが「注目したい記号」で、この地域ではこれ

が名産というような地域の特色を見つけやすいところがよいかと思う。

委員 社会科は通常、資料集は、別冊で購入するのか？

事務局 最近は、教科書に資料が十分載っているのので、買わない場合もある。教員の使い方次第である。

委員 地図として求められているのならば、見易さが一番大切ではないかと考えるので、帝国書院がよい。

委員長 まとめると、地図帳として活用していくという観点で、帝国を◎、東書を○としてよいか。

委員 よい。

委員長 続いて、数学の担当の方お願いする。

事務局 数学について説明する。

まず、東京書籍。

「深い学びのページ」では、問題発見・解決の過程を明確に示し、問題解決の進め方を意識して取り組める工夫がされている。巻末に、「大切にしたい見方・考え方」があり、思考を深め発展的に考えられる構成になっている。

「活用の問題」では、「予想しなさい」や「説明しなさい」という記述式の問題で、自らの考えを表現する力を養えるよう工夫されている。また、章の問題は、AとBに分かれており、習熟度に応じて取り組めるよう構成されており、Bは応用問題や活用の問題を設定している。

次に、大日本図書。

「活用・探究」では、環境問題等教科横断的な問題を扱い学習内容を活用できるよう工夫されている。各単元内のQに「判断しよう」、「伝えよう」の問題を設け、自己の判断や考えを他者に伝える問いを設定し言語活動が充実するような工夫がされている。

巻末「もっと数学の世界へ」では、数学の歴史や生活とのつながりを紹介し、学習内容と社会との関連についての問題を多く扱っている。

続いて、学校図書。

「どんなことがわかったかな」で本時のまとめをし、「次の課題へ！」で次回の授業へのつながりを提示し、主体的な学習ができるよう工夫されている。

「問」、「確かめよう」、「計算力を高めよう」があり、それぞれの単元についての基本問題が多く取り上げられており、基礎基本の定着を促している。また、裏見返しにアイデアボードを添付し、ホワイトボードマーカーで書き消しし、対話的活動が充実できるようにしている。

次に、教育出版

「○章に入る前に」では、前の学年とのつながりを確認し、「もどって

確認」では、既習内容を確認することで躓きなく新しい単元に入れるよう工夫されている。

章の導入課題「Let's Try」では、イラストで生徒の会話をガイドラインにしながら自分の考えを伝えあう場面を設定し対話的活動の充実を図っている。

さらに、章末「学習のまとめ」に、その単元で学習した内容をふりかえりがしやすいように記載し、まとめられている

続いて、啓林館。

「章末問題」では、それぞれの問題で学習したことをふりかえり取り組みやすくし、QRコードを掲載し、解説を用意し、生徒の主体的な学習の充実を図っている。

巻末の「自分から学ぼう編」では補充問題や入試問題等多く掲載されており、習熟度に合わせて取り組めるよう工夫されている。

webコンテンツ上で問題の解説をアニメーションで見ることができるため、グラフや図形等イメージを付けやすく、躓きなく学習できる工夫がされている。

次に、数研出版

「補充」、「資料」、「イメージ」、「考察」の4種類のリンクアイコンを用意し、様々な方法でICTを活用し、学習が充実するよう工夫されている。

分冊で構成されており、別冊では本冊の内容を深め、学びを発展させるための題材が掲載されている。

3年の巻末に、中学校の学習内容を、領域ごとに整理し、3年間の学習をまとめている。それぞれの学年がどうつながっているかがわかる。

最後に、日本文教出版。

「数学の学習を始めよう！」では、問題発見・解決の過程と学びのポイントを丁寧に示し、数学的活動が充実する工夫がされている。また、「とりくんでみよう」では解き方を説明する課題を設けることで言語活動の充実を図っている。

間に「考えよう」「話し合おう」「深め合おう」を掲載し、学習に取り組みやすいようにしている。

委員長 協議に入る。意見のある方はお願いする。

委員 東京書籍の6個目の内容として、章の問題Bで実社会に必要な問題解決能力を高められるような題材が取り上げられているとあったが、家庭科の小松菜としらすの和え物を作るときに、カルシウムの摂取量を考えると小松菜、しらすを何グラム摂るか等の問題があった。数学は社会に出て何の役に立つのだろう、ついついこんなこと役に立つのかと思ってしまうところもあるのだが、実際に実社会で数学の勉強が役に立つということや、今がんばって勉強していることが役に立つ見通しができるということは、モチベーションが持てていいのかなと思う。

また、学校図書は問題の数がとても豊富で、基礎の定着ができるとあったが、例題の数が豊富で、一つひとつに細かい解法が載っていて、自習すると

き等は、細かい解法があることでスムーズに学習ができ、特に文章題は数多く当たることが大切であり、数と細かい便利な説明がよい。

委員 東京書籍、大日本図書、教育出版は、新学習指導要領で新たに1年生においてきた素因数分解を最初に取り扱っている。今まで正負から扱っていたが、小学校から上がってきてマイナスという概念が定着していない状態なので、まずは、正の数での素因数分解から入っていくことで、小学校からのつながりがスムーズである。段階を経て学習ができる。

委員 かながわビジョンの基礎的な知識の習得で考えると、問題数が多いものがよいと思う。問題数が多いのは、学校図書、啓林館、日文と感じる。また、かながわビジョンの批判的に考察し問題解決に取り組むという点では、東京書籍、数研、日文が観点からの問いが多い。問いの場所が分かりやすいのは、東京書籍、学校図書、教育出版である。

委員 主体的な学習の充実を図るとなると東京書籍。基礎から応用までと実社会に向けてというところが理想的である。

さらに、学校図書は、問題発見から課題解決を通して対話的な学びができる。それに向けて、基礎のひとり学びを通して最終的に対話的な学習に向けて取り組めるのではないか。数学は、考え方を身に付ける必要があるとあり、学び合い、深め合い、見方や考え方を広げていけるのではないかと思う。

委員 文字式が導入されるとなるとつまづきが多くなる。東京書籍は、実際の問題を数値化して考えやすく工夫されている。日文、学校図書、数研、大日本図書は似てはいるが、実生活に関係はないけれども、問題を単純化して導入しやすくしている。東京書籍をはじめ5社については、文字式の導入が分かりやすい。

委員 東京書籍は、バランスがよい。基礎から発展にかけてまんべんなく網羅されている。啓林館は、QRコードが結構あり、自主性を持って学べるようになっていく。1年生の巻末には小学校の復習、様々な解き方があり、復習の部分で充実している。

委員 日常生活も身近さという点、東京書籍、大日本図書、教育出版、啓林館は魅力である。算数の部分から数学に入るにあたり、この4社はアドバンテージがある。

丁寧さ、基礎定着は学校図書である。自分自身で学習する自学可能な部分が多いところである。特に数学が苦手になる子は、途中の部分が分からず、最後の答えだけしか見えない、苦戦する部分の多い科目であるので、自学可能な部分で、学校図書がよい。

ウェブサイトですべて自学可能になってくるのは、啓林館、数研、日文であり、細かな説明を自分で見ることができるので一利ある。

委員 各章のまとめで工夫されているのは、東京書籍。章の問題A Bという形で基礎応用と問題数が多く、場合によっては習熟度でAができればよい、その先に進みたい子はBにと応用がきく。

教育出版は、学習のまとめが章の最後にあり、目で見てもその章でどんなことを学んだか、なにが大事なのかが分かり、問題に取り組める。さらに、数学の広場では、自学自習でさらに知りたい、関連していることを知りたい、という子は読んでいておもしろいと思う。

学校図書の、たしかめようには、章のまとめがあり、まとめの問題で基本、応用、活用と3段階で徐々に難易度が増しており、自分のペースや理解によって、無理なく学習ができる。

委員 3年生の教科書を見比べると、有理数、無理数の説明が東京書籍と学校図書の説明が丁寧である。学校図書のまとめでは、自分の分かったこと、自分の学びを見つめることができよい。平方を見ると、日文の説明は小学生的な記述があり分かりやすい。

委員長 委員の意見で多かったものは、東京書籍、学校図書、教育出版、啓林館だが、教育出版、啓林館でほかに意見があれば。

委員 啓林館は後ろからページを開くと横向きで復習が自分からできる仕組みになっている。前から使うときは授業で学習をする、生徒が使い分けできる。

委員 教育出版の特徴は、ページの右側に補充問題、確認事項、吹き出し、公式の記載があり、生徒は活用しやすい。

委員長 それでは、まとめると東京書籍、学校図書、教育出版の3つに○、東京書籍が◎でよいか。

委員 よい。

委員長 続いて、理科の担当の方お願いします。

事務局 理科について説明する。

まず、東京書籍について。

科学史にマンガが取り入れられ、興味・関心を高める工夫がされている。「科学の本だな」で関連する書籍を紹介し、関心を更に広げる構成となっている。

A4スリム判型で観察・実験の流れを見やすくなっています。また、ページ全体に引き伸ばした鮮やかな写真が多く掲載され、学習に対する興味・関心を高める工夫がされている。

「分析解釈」や「検討改善」のページがあり、実験の結果を話し合いながら分析し、解決する道筋が分かりやすくなっている。

続いて、大日本図書。

「理科の学習の進め方」を巻頭に示し、学習に臨む上で見通しを持ちながら、学びを深めていくことができるような構成になっている。

「探究活動」では、自分自身で課題を見つけて解決していく力がつけられるように、ヒントを与えながら展開する構成となっている。

「くらしの中の理科」等で、日常生活と学習との関連を紹介し、生徒が興味関心を持って学習に取り組めるよう工夫されている。また、江の島や箱根の火山等、生徒にとって身近な神奈川県の写真が多く採用されている。

続いて、学校図書。

巻頭に、何を学ぶか、なぜ学ぶか等を示した「理科のトリセツ」があり、探究や学習の方法が説明されている。そして、各ページには「この時間の課題」「この時間のまとめ」等、時間ごとの学習の目標とポイントが分かりやすく示されている。

QRコード先のインターネット教材によって、基礎問題やコラム等を充実させている。そして、発展的な内容や巻末資料等をQRコード先のインターネット教材で提供することで、内容の充実と教科書の軽量化の両立を図っている。

単元の前後に「Can Do List」を示し、学習前に目標を明示し、学習後に「何ができるようになったか」を自己チェックできる構成になっている。

続いて、教育出版。

各章の冒頭に「これまでの学習」を示し、既習事項を確認できるようにするとともに、本文中にも「思い出そう」を配置し、すぐ確認できるよう工夫されている。

課題を明示し、キャラクターの会話を提示することで、自分の考えを話し合いによって練り上げられるように工夫がされている。

実験のまとめとして「結論！」があり、実験ごとに要点がおさえやすいように工夫がされている。また、1年の教科書に「私のレポート」を掲載し、論理的な考察の表現の事例が紹介されており、レポートの書き方を学ぶことができるようになっている。

最後に、啓林館。

単元順序の入れ替えが自由に行えるように各学年の単元（分野）の順番を統一した構成になっている。

単元末には、「学習のまとめ」「力だめし」を配置し、練習問題が充実している。また、「思考力UP問題」を掲載し、学習した内容の深化を促している。

「発展」では、高校で履修する内容や「深めるラボ」で、日常生活との関連の情報が多く掲載されており、豊富な内容になっている。

委員長 それでは協議に入る。意見はあるか。

委員 学校図書のものは、この時間の課題が分かりやすく、実験についても本来どうなるものかが分かるので、どこがおかしかったのか、新しい考察につながる。実際に実験しない時の教室でもイメージしやすく構成されていると感じた。

啓林館については、実生活とのつながりは載せているが、特に「部活ラボ」等中学生の生活により身近なものを取り上げられている。考えるきっかけと

してはよいと感じた。

委員 写真の取り扱いに注目した。東京書籍・教育出版・啓林館がすごく鮮やかだと思った。紙質の関係もあるのかもしれない。なかなか実物を見られない中で授業をやるときに、写真は学習の手助けになる。

実験の取り扱いで、東京書籍の実験の筋道、さらに、うまくいかなかったときの改善方法もあるのは、子どもの立場に沿った形で取り扱っていると感じた。

教育出版も、実験についてページを割いて、探究してみようというところで取り扱っていて、丁寧に扱っている。啓林館は、最後の巻末に探究シートがあり、これに沿ってレポートを書ければ、生徒にとっては課題・仮説・経過・結果・考察等の手順が載っていて手助けになる。また、教員にとっても示しやすい。

委員 東京書籍は、実験の結果を話し合いながら分析し解決する筋道が分かりやすい。対話的に学習を進められるのではないかと思った。

大日本図書は、子どもたちが学習の見通しをもって学びを深めていくことができると思った。

学校図書については、この1時間で何を学んでいくのか、目標がしっかりと書かれていて理解しやすい。終わってからその目標が達成できたかのふりかえりが個々にできると思った。「学びを日常に生かしたら」では、日常生活と関連させて対話的に学習を深められ、科学的な思考力が育っていくのではないか。

委員 東京書籍だが、この判型だと、見開きでまとめられているので非常に使いやすい。見開きで本時の学習が成り立つ。子どもたちもいろいろなところを見なくてもいい。

教育出版は、資料が多くて丁寧、写真がきれい、いろいろなエピソードがあり、章のまとめも問題が充実し、知識量が多い教科書になっている。ただ重いのはネックだが、よいと思った。

委員 学校図書がよいと感じた。分かりやすい、見やすい印象が強い。「学びを日常に生かしたら」では、理科が身近に感じられる。結果と考察の見方考え方は、授業者の立場から扱いやすい、子どもたちに考えさせることもシンプルで、教員が補足を説明しやすい内容だと感じた。実験のページが分かりやすい。東京書籍についても実験のページが分かりやすいと感じた。

啓林館では、全学年が同じ順番で生命>地球>物質>エネルギーと統一していることについては、行ったり来たりする学習の仕方、少し学んでまた戻ってと学習するには有効だと感じた。

教育出版の「思い出そう」が各章に入れられているのも、同じようにふりかえりがしやすいのではないかと感じた。

委員 一番いいなと思ったのは、学校図書で、「Can do list」が単元の前後にあ

り、学習指導要領の資質・能力にあたる部分だが、子どもたちに「これを学習すればいいんだよ」ということが分かりやすく、評価にもつながっていく。出来るというのを最初に提示して、子どもたちが学習の内容を理解できるという部分ではよいなと思った。

東京書籍は、見やすい。A4スリム版で、実験の流れは縦に見ていけば流れが本当に分かりやすい。

大日本図書は、身近な江の島が載っている。実際に行ってみようというときに、地元に近い場所が載っていて、地元に着いた感じがいいかなと思った。

委員 実験ページを比較した。学校図書は、実験方法から結果、考察とスムーズに理解できるような流れになっていてきめ細かい。操作方法が他に比べると大きく広々と載っていて、危険なので注意すべきポイントも目立つように記載されていてよい。数学の計算の復習ページがある等細かい配慮がされている印象がある。

啓林館の教科書は、一番写真の量が多く、インパクトのある写真だった。中学生の興味が湧くような印象的な教科書になっていると感じた。

委員 啓林館が写真に関しては迫力や臨場感がある。もう一つ上げるとしたら、学校図書の写真はインパクトはないがきれいで繊細なページがあった。日常生活との関連はで周期表をみると、東京書籍・教育出版が具体的なものが書いてあり分かりやすいと感じた。学校図書はレポートの書き方やまとめ方が分かりやすい。

委員長 他はよろしいか。学校図書の意見が多く、東京書籍と啓林館が次に多かった。その3者を○として、学校図書が◎でよいか。

委員 よい。

委員長 続いて、音楽(一般)の担当の方お願いする。

事務局 音楽(一般)について説明する。

まず、教育出版について。

「Let's Sing」のページでは、発声の仕方や楽曲のつくり等を意識した歌唱活動のポイントを挙げ、発展的な学習活動につながるような内容になっている。

共通教材については、楽曲や作詞・作曲者の背景を取り上げた資料が豊富で、対話的で深い学びにつながるような構成になっている。

「私たちの暮らしと音楽」では、音楽と社会のかかわりに触れ、音楽の存在意義について認識を深めることができる。また、さまざまな楽器の写真が見開きで大きく示されており、生徒が楽器のイメージを持ちやすいようになっている。

続いて、教育芸術社。

創意工夫して旋律を作る課題では、リズム創作から始まって段階的に作曲の手順が示されており、作業の具体的なイメージを持って創作活動ができるよう工夫されている。

伝統的な発声である雅楽の「唱歌(しょうが)」、長唄、能の「謡(うたい)」が、歌唱教材として取り上げられている。

「生活や社会の中の音楽」では、身近な音楽や社会貢献としての音楽が取り上げられている。また、世界中の様々な、かつ身近な音楽が紹介され、著作権についても触れられる等、教材の理解を深めるための資料が豊富である。

委員長 それでは質疑のある方。

委員 なし。

委員長 それでは協議に入る。意見はないか。

委員 教出のほうが深く、教芸の方が広く、内容を扱っているようだ。
教芸は、舞台芸術や、歌舞伎を取り扱っている。また、仕事と音楽のつながりが載せられているのがよい。

委員 教育出版は、ギターや琴等弾き方がより大きく載っていて、見て分かりやすい点でよい。鑑賞曲のページでは、オーケストラや曲を連想させる写真等があり、視覚的に分かりやすい紙面構成になっている。
教育芸術は、合唱曲多い。映画音楽ジャンル等いろいろな音楽に触れることができ、学びを広げていけるのがよい。

委員 教芸は、音楽づくり・曲作りを丁寧に扱っている。また、その中でリズムについて学ぶ等まとまりがあってよい。

委員 赤とんぼの写真、教芸のほうがきれい。楽譜の上にこんな風に歌おうと説明がある。
ソーラン節等民謡の譜で、実際に歌っている人が使っている楽譜を取り上げていてリアルである。

委員 指揮の仕方についての分かりやすさは、教芸の方があがる。また、構成の仕方や歌い方の解説、階名がついている等分かりやすい。

委員 社会との関わり等載せている。詳しくについては教出が優れている。

委員 教育出版は、曲、作者の背景を取り上げているのがよい。教芸は、手軽にダウンロードができる今の時代に合わせて、著作権、作者の苦勞等取り上げている。

委員長 教芸の意見が多かったことを考えて、教育芸術が◎、教育出版は○でよろ

- しいか。
- 委員 よい。
- 委員長 続いて、音楽（器楽合奏）の担当の方お願いします。
- 事務局 まず、教育出版。
中学校で扱うことの多いリコーダーの教材が、段階的な内容で取り上げられており、分かりやすい。
Let's Play!では、小学校で学んだ曲や、音楽（一般）で鑑賞教材として取り上げられている曲が器楽用にアレンジされ、合奏に取り組みやすくなっている。
「何が同じで、何が違う？」では、和楽器と西洋楽器の特徴を比べる鑑賞教材があり、共通点や相違点について調べたり話し合ったりできるようになっている。また、楽器の写真や、楽譜が見やすく、演奏の様子も分かりやすい。
続いて、教育芸術社。
リコーダーの教材は、これまでに馴染みのある楽曲がアンサンブルに編曲されたものから始まるため、学習の意欲を高められる。学校で扱うことの多い箏や打楽器の奏法が詳しく説明されており、分かりやすく、取り組みやすい。
「寄席の合方」によるリズムアンサンブルは、長唄をもとにした楽曲で、伝統的な音楽を取り入れながら意欲的に取り組めるよう工夫されている。また、演奏家や音楽文芸批評家のメッセージがあり、音楽学習の動機付けになる。
- 委員長 それでは協議に入る。意見はないか。
- 委員 全体的に、教出は世界の楽器、教芸は日本の楽器をよく取り上げている印象がある。
教出はアルトリコーダー、ソプラノリコーダーの音の高さを扱っている。教芸の方は、楽器の持ち方や演奏の時の姿勢等を載せていて、より丁寧な印象がある。選曲も面白さがある。
- 委員 琴やギター等、触れることの少ない楽器について細かく説明があり、表示が大きいのは教芸だと感じる。興味を持った生徒が、実際自分でやるときによいのではないか。
- 委員 教出は、リコーダーについてたくさん触れていて、アルトリコーダーが初めての子も入りやすい内容になっている。教芸は、苦手な子に対しても、興味を持ち、感受の広がりが幅広く増えていくような内容になっている、音楽を楽しんでいける形で構成されている。
- 委員 教育出版は、楽器の調べ学習があり、生徒が楽器自体に興味を持つのによ

い内容になっている。

委員 教出の方が、アルトリコーダーの導入にページを割いていて丁寧に扱っている。

委員 教芸は、リコーダーの譜の中に生徒が疑問に思うようなQ&Aが載っている。練習する際に使いやすい。

委員 教出は、奏法が写真で掲載されている。ギターコードについても、教出の方が見やすい。教芸は、説明が丁寧。視覚的に分かりやすいのは教出、読んで説明を見ながら分かりやすいのは教芸だと感じる。

委員 教芸は、和楽器について、三味線・尺八・琴を取り扱っているが、生徒が実際に演奏を体験する可能性がある琴を丁寧に扱っている。今どきの曲も、琴で弾いてみようというものがあり充実している。

委員長 教芸の方が、よい意見が多かったことを考えて、教芸が◎、教出が○でよろしいか。

委員 よい。

委員長 続いて、美術の担当の方お願いする。

事務局 美術について説明する。

まず、開隆堂出版。

全体的に普遍的な作品が多く提示されており、美術文化と豊かに関わることができている内容が盛り込まれている。題材ごとのページ上部に、目標が3観点で示されており、生徒が何を意識して作品作りに取り組みばよいか分かりやすい。

「学びの資料」では、写真を用いて道具の使い方や注意事項等を細かく提示しており、生徒が技能を学びやすくなっている。A4 ワイド判が採用され、写真や作品が大きく見やすい。また QR コードを通じて作品例、美術館のリンク先等様々な情報が提示されており、生徒が自ら情報を活用しながら学習できるようになっている。

続いて、光村図書。

図画工作科からのつながりを意識し、生徒が3年間の美術の授業を見通して、学びへの期待が持てるように工夫されている。

「みんなの工夫」として、生徒が実際に制作した作品が順を追って説明されており、活動内容を具体的にイメージしやすくなっている。

全体を通して地域や時代、性別に偏りなく、いろいろな分野の作品が多く提示されている。光琳や北斎等日本の伝統的な作品から、世界各国の仮面、津波避難のポスターと、参考にできる題材が幅広いため、生徒が自分の興味に合わせて選びながら、主体的に学ぶことができるようになっている。

次に、日本文教出版。

原寸大の作品が掲載されている。絵の具の質感や筆致等が伝わり、作者の作品に対する思いを考えるのに役立つ。3冊とも、各題材の3つの観点が「学びの目標」として記されており、具体的な目標が分かりやすくなっている。

A4 ワイド版を採用し、作品や写真が大きくて見やすい。また印刷が美しく、作品の細部が伝わりやすく提示されている。また、QR コードがあり、教科書の内容に関連する動画や360° 回転の写真を見ることができ、生徒が創造的な見方・考え方を働かせられるようになっている。

委員長 協議に入る。意見はないか。

委員 導入部で、開隆堂は鑑賞について、光村は表現の仕方について丁寧に説明している。日文は生徒の作品が多く紹介され身近に感じられる。光村は、空想の世界・生物、形や色で美術の無限さを伝えている。開隆堂は、自ら表現すること、作品を見て無限を感じることを伝えている。日文は季節を楽しんだり、光を使ったり、目隠しをして作ったり、障害のある方への手助けとなるような作品を作ったりということから美術の無限さを伝えている。

委員 日文と光村は、生徒作品がたくさん載っているのがよい。日文は作者のコメントを載せているが、光村は、制作過程の悩みや、制作に対する工夫等細かく載っていて、制作の参考となる。開隆堂は、美術の力が社会に生かされていることが載せられている。

委員 日文は、作品が大きく掲載されている。迫力もあるし、鑑賞の際にも作品の特徴やどのように描かれているかを伝えやすい。インパクトがあり、子どもに関心を引く写真や絵が多くある。

委員 開隆堂や日文は、何を学んでいかななくてはいけないのが分かりやすい。QR コードは参考になる。光村は、美術が苦手な子にとっても、QR コードによって全国の生徒の作品を見てみようだとかとても参考になるのではないかな。内容がいろいろな角度で描かれていて、それぞれ興味関心を持つことができ、分かりやすいのではないかな。

委員 日文は、屏風絵の大きな写真がよい。他の教科書にない掲載の仕方である。文字をデザインする学習のページもインパクトがあり、見ていて面白く、生徒の描く意欲を湧き立てるのではないかな。オリンピックや都道府県のマークについて取り上げているのもよい。「美術館に行こう」はガイドマップ的に構成されているのがよい。

委員 光村は、絵を描く順序が載っている。苦手な子には分かりやすい。また、「鳥獣戯画」について載せられていて、小学校の時の学習が生かせるのでは。

委員 光村と日文の印象が強い。日文は活動するにあたって、見て分かりやすい。光村の分かりやすさは、子どもたちにどういうテーマで取り組むか視点をはっきりと示しているところ。光村はモダンアート色が強い。開隆堂はまんべんなく取り扱っているが、旧態依然としている。

委員 日文は巻末に年表とともに作品が掲載されていて、時代の移り変わりとの関係が分かりやすい。光村は、作業によって細かい活動目標が書かれていて分かりやすい。

委員長 光村と日文の意見が多かったが、制作面でのよい意見は、光村が多かったことを考えて、光村図書を◎、開隆堂、日本文教出版を○でよろしいか。

委員 よい。

委員長 続いて、保健体育の担当の方お願いする。

事務局 保健体育について説明する。

まず、東京書籍。

口絵の7ページでは、健康や安全は様々な人々によって支えられているという事例について、授業場面と社会的活動とのつながりを示す資料があり、学習と実生活の関連が理解しやすいように工夫されている。

「運動やスポーツの多様性」の内容では、歴史的な視点や、様々な人々が運動に親しむ様子が示され、共生の観点から多角的で多様な関わり方を考えられるようになっている。

巻頭には、生徒がQRコードを利用してインターネットを使った学習が進められるように、一覧でコンテンツが示されている。

次に、大日本図書。

近年発生した地震等の写真を資料として見開き2ページで取り上げる等、自然災害の迫力が伝わるようにイラストや写真が掲載されている。

運動やスポーツの多様な楽しみ方では、過去のオリンピックや、スポーツの移り変わりを掲載し、歴史的な視点から運動やスポーツを調べられる資料を示している。

資料やイラスト内に説明する文章を挿入することで、生徒が理解しやすくまとめられている。

続いて、大修館

各項目の「コラム」や「事例」、「保健の窓」で、人物を取り上げその人の思いや考えを紹介している。また、実習のページでは、資料に写真やイラストを用いて、実際の動きや方法が可視化されており、実感を伴った知識に関連づけられる構成になっている。

「スポーツの関わり方」の特集資料では、最新の技術を使い人間の身体能力を超えたスポーツである「超人スポーツ」や、障害のある人や高齢者でも楽しめる「ゆるスポーツ」が紹介され等、普段関わりのないスポーツを紹介することで興味関心を高めている。

リラクセーションの方法や止血法等の実習のページでは、資料に写真やイラストを用いることで、実際の動きや方法が可視化され、分かりやすく解説されている。

最後に、学研。

各章の最後に「探求しようよ！」という項がもうけられ、その章で学習した内容について、いくつかの発展的な学習課題を示して、自分で課題を選択して取り組めるようになっている。

「スポーツの多様性」では、ルールや用具、補助等で誰にも合ったアダプテッド・スポーツや、新しくスポーツをつくる活動を取り上げ、様々な差を超える事例が挙げられている。

各項の「まとめる・深める」では、学習内容を活用し、実生活につなげることができるようになっている。

委員長 それでは協議に入る。

委員 東書はスポーツをする方だけでなく、支える方を多方面から見ている。大修館は絵や写真が多い。

委員 東書や大修館がよい。関わり方として、生涯スポーツを通してよりよい人生を考えるきっかけになる等、学校教育に期待することが網羅されている。大修館は、薬物についてのことやがん患者の事例等、事例がリアルで心に響く。心肺蘇生等、実生活に根付いた構成となっている。

委員 心と体、自己形成等については、大修館が分かりやすい言葉で書いてある。イラストもよい。コラムも今風で、ちょっと先輩の方のコラムが、子どもたちにとって興味深いのではないか。

委員 東書は、いろいろな視点から描かれている記事が載っていて見やすい。学研は、ページ毎に子どもたちが興味を持てるようなものが載っている。

委員 大日本図書の構成について、学期で3時間となると、見開きで完結できる分量が教師側からやりやすいと考える。
東書は、生涯スポーツ等、人生100年と考えたときに、どうスポーツと関わるを考えさせるにはよいと感じた。

委員 大日本は説明の丁寧さ、抜きんでている。東書も説明分量は多い。
授業の組み立てがしやすいのは大日本だと思う。組み立てがしやすいということは子どもたちも授業を理解しやすいということではないか。

委員 東書は、インターネットを使った授業がやりやすいと感じた。
大修館を見てみたが、感染症を多く扱っている。マスク等、今扱いやすい内容も載っていてまさにタイムリーである。

- 委員長 それでは意見をまとめる。東書が◎、大修館、大日本が○でよいか。
- 委員 よい。
- 委員長 続いて、技術・家庭（技術分野）の担当の方お願いします。
- 事務局 技術・家庭（技術分野）について説明する。
まず、東京書籍 について。
「最適化の窓」では、技術分野での見方・考え方となる視点がたくさん示されており、多面的、多角的に学習を見つめていけるよう工夫されている。また、同じガイダンスでは、生徒にとって身近な題材が丁寧に取り上げられている。
「TECHLab」では、大きい写真で細部まで視覚的に見せ、次ページから詳細に実習に取り組む際の注意点が掲載される等、生徒が主体的に取り組みや
すい工夫がされている
巻末に SDGs がマーク一覧とともに紹介され、家庭分野やその他の教科と連携が取れるよう工夫されている。
続いて、教育図書。
ガイダンスでは技術分野の学習における生徒や教員の不安を取り除くような内容が示されており、安心して学習に取り組むことができるようになっている。
実習の前の学習では必ず安全確認のページが用意されており、生徒の安全意識を高めて実習に取り組めるようになっている。また、実習の基礎技能を、別冊で切り離す形で活用できるハンドブックで学ぶことができる。
新学習指導要領で示されている、ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツや計測・制御のプログラミングについて、ビジュアル型、テキスト型が例題として掲載されている。
続いて、開隆堂。
ガイダンスは、コンパクトにまとまっており、当たり前のように世の中にある技術には、どのような工夫があるのか等に触れ、技術分野に興味を持たせるよう配慮されている。
学校ではなかなか揃えられない 12 種類の木材を、107 ページでは 10 種類の植物の病気や害虫を、画像により特徴を詳しく見せ、生徒の興味を引く工夫がされている。
新学習指導要領で示されているネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツや計測・制御のプログラミングには、ほとんどのプログラミングがビジュアルで例題として掲載されている。
- 委員長 それでは質疑のあるかた。
- 委員 なし。
- 委員長 それでは協議に入る。

- 委員 鎌倉市では家庭科の教員が技術を教えるということがあるということだが、教育図書はプログラミングの単元では写真が多用され、丁寧に詳しく扱われており分かりやすい。写真に沿って具体的にどこをクリックすればよいかまで記載される等、細かな部分まで取り上げている。
- 委員 開隆堂出版も資料がたくさん掲載されており、プログラミングの基礎知識が網羅されている。さらに QR コードもあり、生徒が発展的に、自学的に学ぶことができる。
東京書籍は、木工の分野で手順にそった説明写真が多く掲載されており、手順が分かりやすい。開隆堂は「コンピューターの基礎操作」という部分で、ディスプレイの写真がそのまま掲載されており分かりやすい。
- 委員 教科書としてよいと思うのは、東京書籍である。パラパラマンガが取り上げられる等生徒にとっては興味深いのではないだろうか。開隆堂は、「一つのことにとらわれることがない」という表現があり、よいと感じた。
東京書籍は、今やっていることがプロセスのどの部分なのかが分かりやすいように構成されている。
- 委員 多面的多角的に取り扱っているのは東京書籍であると考えられる。
プログラミングについては東京書籍が授業でも使いやすいのではないかと学校図書はいくつか例が挙げられている。
開隆堂は、問題解決から始める内容となっており、双方向性のある学びを展開することができる。課題があり、それを解決するための方法が提示され、今後の生活に生かすという単元の流れになっており、その流れが提示されていて、生徒が見て分かりやすい。生徒のこれからの生活や未来に役立つ分かりやすい構成となっている。
- 委員 東京書籍の巻頭のガイダンスが分かりやすい。写真が細部まで載っていたり、作業をするうえでよくあるミスチェック項目があったり、授業で使いやすいように感じる。
教育図書は、付録が充実している。ハンドブックや手順表も授業で使いやすいのではないだろうか。
- 委員 プログラミングなら、開隆堂出版、教育図書、東京書籍の順で分かりやすく感じる。教科書全体を通して考えるならば東京書籍がよい。
教育図書は教科書のつくりが分かりやすい。すべての章が同じ形で構成されていて、発展、まとめ等、どの段階なのかが生徒に分かりやすい。
- 委員 教育図書は、細やかで丁寧さがある。しかし、安全確認のページ等、教師が授業中に教えるということでも十分ではないかと思えることまで記載されている。
鎌倉市の実態として家庭科の教員が教えるなら東京書籍が分かりやすい

ように感じる。教科書に使用されているアイコンのマークも分かりやすい。
開隆堂の問題解決・課題解決から入る構成は、これからの日本を生きる子どもたちには必要なのではないかと考えられる視点である。

委員長 どの観点から選ぶかによるが、全体の意見をまとめると、東京書籍を◎、開隆堂○、教育図書○となるかと思うが、よいか。

委員 よい。

委員長 続いて、技術・家庭（家庭分野）の担当の方お願いする。

事務局 技術・家庭（家庭分野）について説明する。
まず、東京書籍について。
3品目の献立全体の調理手順の流れが分かるように図で示されており、実際の実習での調理手順をイメージできるように工夫されている。
幼児の成長による基本的な生活習慣の獲得例では、発達の年齢を細かく分けないことで、個人差があることにも配慮されている。
巻末に防災・減災手帳と、子どもの視界体験眼鏡が付録されており、実践的・体験的な学習に結び付けられるよう工夫されている。
続いて、教育図書。
口絵に年中行事一覧があり、普段の生活と家庭科のかかわりが分かり、生徒に興味を持たせることができる。
IHの火加減についても触れており、現代に合わせた様々な家庭での実践にもつなげやすくなっている。
巻末の料理のシールを使って、献立作成がより楽しく実践的・体験的に行えるよう工夫されている。
最後に、開隆堂。
実習例の「調理方法 Q&A」では調理の疑問に答える形で、調理科学という大切な視点に興味を持たせる工夫がされている。
献立作成の方法を複数のステップに分け、段階的に理解し、生徒が考えやすいように工夫されている。また、調理例が豊富に示されており、アレルギー食品には黄色でマーカーがついており、アレルギーへの意識を高める工夫がされている。

委員長 それでは協議に入る。意見はないか。

委員 東京書籍も開隆堂も調理実習の献立等は見やすい。その中でも、東京書籍は、タイムスケジュールの記載があり、実生活により役立つのは東京書籍ではないかと考える。

委員 東京書籍はほかの教科とのつながりや将来の仕事について扱う等、生徒のこれからの生活に関する事柄が取り上げられており、今後を考える上でよいと考える。

委員 調理については、どこの出版社も分かりやすくてよい。消費者としての意識を育てる部分としては、開隆堂は図がダイナミックで分かりやすい。

開隆堂や教育図書は知識を知る・学ぶという点でよいが、東京書籍は「消費者としてどのように生活するか」という投げかけの形で扱っており、生徒がより深く考えるきっかけとなると思われる。

委員 東京書籍は、巻末の防災手帳や社会体験について扱っていて、経験を通して学んでいくことを大切にしている。教育図書は様々な家庭の生活スタイルに合わせた記載がされており、ガスコンロ・IH等多様な表現がされている。

委員 調理に関してはそれぞれの出版社の良さがある。教育図書は興味を持たせることを大切にしていると感じられるし、開隆堂はたくさん事例が載せられている。

東京書籍は分かりやすく、教科書の手順にそって作業を行い、さらに発展的な工夫ができるような広がりを持たせている。また、生徒が自分たちの育ちを見つめ直すような保育的な内容が扱われている。赤ちゃんの頃をふりかえり、育っていき大人になって生きていくうえでの流れや人生を考えさせるような教材が扱われている。

委員 東京書籍は、裁縫の部分で、「布を裁つ」という表現がされており、きちんとした日本の伝え方をしている。また、現在の社会情勢からみても、手の洗い方について非常に分かりやすいところがよい。

開隆堂は、調理実習で「Q&A」というコーナーがあり、質問の形で調理の基本を教えてもらえるところがよい。

委員長 意見をまとめると、◎としては東京書籍。開隆堂、教育図書は○ということでしょうか。

委員 よい

委員長 続いて、英語の担当の方お願いします。

事務局 英語について説明する。

まず、東京書籍について説明する。

東京書籍の「NEW HORIZON」は、他教科と関連した題材を英語で学習する内容や、英語の学習の仕方を紹介し、主体的な学習意欲を育てる工夫がされていることが特徴。英語による、他教科と関連した学習を図る CLIL に対応した単元や、議論やディスカッションを行う「let's talk」等、英語での理解や表現の実践的な力を伸ばす横断的な内容が扱われている。

ページごとに QR コードがついており、新出単語、本文、プレビュー動画が視聴できるようになっている。特に、本文については、全文の通し読みを聞くことが出来るようになっていて、学習のまとめとして音声を活用するこ

とができる。

「学び方コーナー」は、単語の覚え方や音読の仕方、これからの英語学習法等、英語を学ぶ主体的な学習意欲を育むことができる内容となっている。

続いて、開隆堂について説明する。

開隆堂の「SUN SHINE」は、まとまった英文の内容を要約し、言い換える Retell 活動を取り上げている点が主な特徴となる。各 program に本文の内容を自分の言葉で要約し、再現する Retell 活動があり、自分で言える内容で話すことで、主体的な学習となる工夫がされている。

「Power up」のコーナーでは、店や公共交通機関等で用いられている簡単なアナウンスの教材が取り上げられており、空港でのトラブル、非常時のアナウンス等、自分の置かれた状況等から判断して必要な情報を聞き取る活動ができようになっている。

導入が漫画形式で示されており、イラストや音声を頼りに生徒自ら考えて内容を推測できるよう工夫されている。

続いて、三省堂について説明する。

三省堂の「NEW CROWN」は、現在鎌倉市立中学校で使用されている教科用図書である。特に書く活動において、創造力やアイデアを生かし、表現する題材が多く設定されていることが特徴となる。

「Use write」は、目的や場面、状況に応じて、まとまりのある英文を書く活動となっており、「英語の詩を書こう」、「キャンプの申し込み」、「レポートを書こう」等、生徒の興味を引く内容となっている。

巻末付録に、会話を進める表現、ロールプレイシートがあり、即興的な会話練習ができるようになっている。また、同じく巻末付録に「Audio Scripts」があり、「Take Action! Listen」の音声文が示されていて、リスニングやシャドウイングの練習ができるようになっている。

続いて、教育出版について説明する。

教育出版の「ONE WORLD」は、巻末の Activity Plus や、4 技能 5 領域の力を伸ばすコツが書かれたコーナーがあり、自主学習が行えるような工夫がされていることが特徴。

神奈川県に関する内容が扱われており、中華街、長谷の大仏、京急線と横浜スタジアム等が本文内で取り上げられている。

赤い透明シートが付帯されており、巻末の「Activities Plus」を使用して自主学習ができるようになっている。

「Tips」には、活動内容に応じて英語を運用する 4 技能 5 領域を高めるコツが分かりやすく書かれている。

続いて、光村図書について説明する。

光村図書の「Here We Go!」は、本文の内容を自分の言葉で言い換える Retell 活動や、即興的なやり取りをするトレーニング、その他、生活場面で使用する生きた英語につながる活動が多く取り扱われているのが特徴。

「Story Retelling」のコーナーでは、各 Unit 本文の内容を、絵と写真を使用して自分の言葉で言い換えて伝える活動があり、生徒自らが考え、言葉にする、実践的な言語活動ができるよう工夫されている。

とじ込みとなっている「その場でスピーキング Let's Talk!」では、即

興的なやり取りをするドリルが用意されていて、毎回の授業の Warm UP トレーニングとして活用できる。

各 Unit 後に「Daily Life」のコーナーがあり、国際郵便の宛名の書き方や、ニュースの聞き取り等、生活場面で使用する生きた英語につながる活動が取り上げられている。

続いて、啓林館について説明する。

啓林館の「BLUE SKY」は、会話活動が多く設定されていること、英語の発音のポイントがかなり詳細に書かれていることが特徴。

「Practice」、「Use」等、様々な会話活動が設定されており、会話活動の中で繰り返し学習した文法事項を使用して定着させる工夫がされている。

巻末付録にある「英語のつづりと発音」では、発音記号とともに、発音の仕方が細かく整理され、英語らしい発音となるコツが掲載されている。

1年から3年を通して、教科書に直接書き込めるようになっている。

委員長 それでは質疑のあるかた。

委員 なし。

委員長 学校の調査資料も含めて考えたい。

委員 光村は、2年生では会話文のやりとりが多くやりやすい。実践的である。三省堂、東京書籍も実践的と感じる。開隆堂は、スピーチの取組が多い。

委員 光村は、Story Retelling、Let's Talk 等難しい技能だが、これからの鎌倉の生徒につけさせたいということで、学校票も高い。ぜひ、こういった力をつけさせたい。

三省堂の字体は、読み物以外でも3年生までずっと同じ文字フォントを使用する。文字が苦手な生徒は、印刷の文字と書く文字の形が違う（a、g、t等）ことを気にする。書く文字と読む文字が同じだと助かるのではないか。

東書は、ページごとにQRコードがある。これを使って自学自習できるのはすばらしく、活用させたい。興味があるものを自分で学習するということが大切。

東書、三省堂は、1年生の教科書に4線が引いてあるので丁寧に導入できる。

委員 神奈川ビジョンの国際理解を考えると、三省堂は外国の良さを書いている文章が多いと思う。

委員 光村は英語を話すという観点では、中学生に一番なじみやすく、巻末付録も充実していてこれから英会話をやっていくのによい。題材が国際理解や環境問題に重点化されており、プラゴミやリオデジャネイロ等内容がよい。

ニュークラウン（三省堂）は朗読のページで、どこで切るか等今までの英語の学びや文法、英作文を重視している。読解の要点はよく解説されており、

問題形式の確認がなされているので、受験等を考えるとよい

委員 教育出版は、1年の最初の導入はクラスルームイングリッシュの提示で、字が小さく音声で確認するところがよい。3年の最後は、ジョン万次郎の話だが、かなりの長文になっており、3年の最後はこんなことができるようになる、というモチベーションになるのではないか。

啓林館は、音とスペルを一致させる指導が分かりやすくされている。

光村は、クラスルームイングリッシュはあえて外して、指導しやすくする意図があるのではないか。3年最後はトムソーヤを扱い、文章的にも長く、中学生の感受性にも適しており、汎用性が高い。

東京書籍は、他教科とのリンクがマークされている。横のつながりがしっかりとして出てきており、教科横断的。

啓林館は、最後のページにまとめがあり、視覚的に前置詞等の文法的な説明がされており、英語が苦手な生徒には分かりやすい。

委員 光村、三省堂は実践的な英語である。光村は、3年生になると難しい。

東京書籍は、単語や文法表現を大事にしている。英語の教科書らしく、しっかり学べる。

委員 言語の学習には、聞くということが大切。光村は、対話を続けさせるコツを教えている。一人ではなく相手がいてコミュニケーションをとることの大切さを考えようというところがあってよかった。

委員 光村の内容、国際理解や、生活場面の英語、職業診断のチャート等面白い。英語が特別なものではなく、日常のことを英語でやってみよう、というスタンスなのがよかった。

委員長 まとめると、光村、三省堂、東京書籍の意見が多かった。
この3つが○で、その中で多かった光村を◎でどうか。

委員 よい。

委員長 これですべての種目について終了した。

次に前回の協議をまとめ、報告書案を作成いただいている種目について協議を行っていきたいが、時間も迫ってきたので、現段階で出来上がっている報告書について、事務局から説明をお願いする。

事務局 お手元の資料が、前回の協議をまとめた報告書案である。これに今回、協議した種目についてまとめたものを追加し、事務局で報告書の原案を作成する。そして、最終的な確認や文言の調整については、委員長、副委員長と事務局で取りまとめていくという進め方でいかがか。

委員長 事務局から説明があったが、そのような方向で報告書案の内容確認を進め、最終的に報告書として提出しようと思う。よろしいか。

委員 よい。お願いします。

事務局 承知した。

なお、報告書案の内容について、ご意見のある委員の方は、事務局へご連絡いただければ、委員長、副委員長とともに検討し修正する。「検討結果」の○◎の付け方がよいか、「総合評価」に発言の趣旨が記載されているかをご確認いただき、適切な用語が使われているか、字句の表記は正しいか等についてもご確認いただければと思う。

委員長 では、この後、事務局の提示した流れで報告書を完成させることとする。

委員長 閉会の言葉
事務局から連絡をお願いします。

事務局 協議等に使われた資料については事務局に返却を願う。
終了。

会議録署名

令和3年度(2021年度)使用教科用図書採択検討委員会(第3回)

委員長 (三好 晃秀)

会議録署名委員 (藤部 乃子)

会議録署名委員 (杉野 山斗)